

到彼岸に想う私のいのち

「お彼岸」は、古代から日本独自の仏事です。墓参りをして先祖の生死に思いを馳せ、自らのいのちの本性を自覚する営みです。しかし、その真意を知る者ははなはだ少ないようです。

「彼岸」とは正しくは「到彼岸」、つまり此の岸を離れ彼岸に「私」が到ると言うことです。

娑婆の定見では、この世からあの世である。ご先祖様はあつちに行つたけど私はまだこつちにいる。いずれは私も逝くけどまだまだ早い。いつまでもこの世に未練がある。

コロナ禍中で唯一学んだこと、人は苦楽に翻弄され「死にとうない金欲しい」という迷いの欲海から出られないと言うことです。

仏の教えに従うと、此岸は欲界と言う娑婆濁世、彼岸は仏が薦める浄土の悟りである。此岸と彼岸の間には途方もなく越えがたい「迷妄の私」という壁がある。仏教はこの我執の壁を問題にします。真宗では先に逝つた者を先達と言う。自分よりも先に行つたからだ。人は仲間と言う社会を作り、互いの身体を伺いながら自らの行動を決して行く。借り物の身体が減尽のとき、その心行を先達に聞きたい。しかし、先達はもういない。だから、仏に聞くしかないと言うことになる。これが彼岸の仏事を勤める者の心構えである。

今年も春の彼岸会が勤まる。先達の供養を縁に、私のいのちのありようとその行く末を仏さまの智慧を載いてみよう。

本徳寺春彼岸会のご案内（19日～21日）

今年もお彼岸を迎えます。五濁悪世が增長する娑婆世界で、終生、問題とされ、気づいてほしいと願われている仏の大慈・大悲に出会うことが到彼岸の目的です。

生死にただ放浪されるのではなく、生・老・病・死を貫く大いなる命に目覚めることが目的です。

この度の行事からコロナで中断しておりました**午前中の行事を左記再開いたします**。防疫対策を万全にして修業いたします。

本徳寺有縁の皆様方に、お彼岸会のご案内を申し上げますので是非ご参拝ください。

彼岸仏供養のお経付けは随時受け付けます。

3月19日・20日・21日

午前七時半 晨朝勤行・引続き法話

午前十時 同行勤行・引続き布教

午後一時 彼岸会勤行・引続き布教

布教 山口・真行寺 佐々木大乗師

春彼岸後の行事予定

本坊永代経法要 4月13日・14日（土日）

本坊蓮如忌法要 5月12日（日曜日）